

## 平成 21 年度 第 1 回高知県公共事業再評価委員会議事概要

平成 21 年 9 月 25 日 13:00 ~ 17:00 高知共済会館 3 階 赤帝

地域活力創造交付金事業

道路改築事業（道路課）

委員長：交通量が少なくなると、効果も小さくなる。各路線で道路整備による時間短縮はどの程度か。この場合の現道での速度はどの程度か

道路課：国道 439 号木屋ヶ内バイパスで 5 分、国道 441 号川登バイパスで 1.5 分、国道 493 号北川奈半利道路で 8 分、地方道窪川船戸で 2.4 分である。現道の速度は実走速度である、

委員長：川登で冠水する頻度はどの程度か。

道路課：各年の冠水回数と冠水時間は、平成 16 年は 2 回で 30.5 時間、平成 17 年は 1 回で 23 時間、平成 19 年は 1 回で 16 時間、平成 21 年は 1 回で 7.5 時間となっており、平均すると毎年のように冠水している。当地は堤防が無く、四万十川の増水により冠水する。

委員長：幡多市民病院へのアクセス強化による効果はどの程度か。

道路課：病院側に西土佐村からの来院数を問い合わせたが、既存のデータはなかった。

委員長：全体事業費の B/C が 0.4~0.5 のものがある。北川奈半利道路は終了するが他は残り数年を要する事業である。例えば、産業振興ビジョンを考慮すると B/C がこの程度増加すると言えるか。

道路課：市町村の産業振興ビジョンはあるが、地域の産業振興のためにこの道路を整備するといった具体の計画がないのが実態。

委員長：全体事業費の B/C を上げる説明が必要であり、調べてほしい。

道路課：今後検討していく。

委員長：窪川船戸で貨幣換算できない効果に観光振興がある。観光振興の要素を入れれば B/C が大きくなるのではないか。道路整備による観光客増の効果を見込んでいないか。

事務局：工区が異なるが、幡多土木では、連休期間中の交通量の実態を把握している。その数字を説明させる。

幡多土木：国道 441 号の川登での連休中の交通量調査結果を報告する。5 月 6 日の交通量は 2,035 台、県内 1,433 台、県外 602 台。平成 17 年の資料では 1,272 台となっている。お盆の 8 月 13 日は 2,932 台、県内 1,829 台、県外 1,103 台であり、県外車が多い。なお、今年の 8 月 13 日は台風の直後で観光バスはこの時期を外しており、例年より少なめと思われる。

委員：この調査を活かしてほしい。トンネルを切土に見直してコストを 1 億円削減した事例を聞き、計画見直しの必要性を感じた。

